

2022 年度終了 東京都立大学教育改革推進事業
（【A】組織提案型支援プログラム）取組

1 取組名称

リエゾン型 TA の配置による教育改善

2 取組組織名

理学研究科

3 取組実施代表者名

理学研究科 物理学専攻 教授 森 弘之

4 取組年度期間

2020～2022 年度（3 年間）

5 取組の概要

理工学研究科からの取組で設置された「理工何でも相談室」を継続し、「SA、TA による問いかけ」に重点を入れた仕組みを導入する。具体的には、相談室に配置する SA、TA の学生に、教員と学部 1～2 年生のリエゾンの役割として、質問に答えるだけでなく問いかけ等を通じて学部生の学修に関する横断的な問題を吸い上げ、それを担当教員に伝えることで、従前の授業アンケートでは掬い上げられなかったリアルタイムでの授業改善を行うことを目標とする。また、SA、TA にプレ FD の要素を取り入れることで専門に対する意識を高めるとともに、学部 1～2 年生の学修への自主性を高める意識改革も視野に入れる。

6 事後評価の総合評定

3. 8 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った 5 段階評価（5～1）の平均点

7 事後評価に関する審査会での主な意見

- コロナ禍でありながら、オンラインの活用など工夫をこらしての実施、また対面開催の重要性も踏まえた形での、現実に即した実施体制を維持したことは評価できる。とくに理工系学生の相談室に関するニーズは一定程度、恒常的に存在していると思われるので、さらなる工夫と内容を充実させた形での実施が期待される。
- 新型コロナ感染症対策を経て仕組みのアップグレードが進み、昨今の大学教育の大きな課題である学修態度の受身化への対応に向け有益な知見が得られた。
- コロナを経て、オンライン、対面、kibaco 等を活用した STA、TA による学部生の相談を継続し、学習力の向上につながっている点が評価できる。特に、STA、TA の地道

な対応より、本事業を通して STA、TA の教育力向上にもつながり、きめ細かい支援力の定着ができたと評価できる。